

前回までの検討会議の振り返り (1/2)

第1回検討会議：課題の整理

主な議題

- 公園の現状及び課題について
- 公園を取り巻く状況について

公園の課題に関する主な意見

- 民間企業を誘致できるような、インフラの整備等が必要か。
- 通年型の集客が九十九里・南房総エリアの課題。レジャーの多様化やライフスタイルの変化への対応が問題。
- 海と関連した施設が少ない。若い人達を惹き付ける、海と親和性のある施設があった方が良い。
- 飲食店がなく、公園内のコンテンツも少なく、海にアプローチできない。

公園のポテンシャルや今後の方向性に関する主な意見

- 九十九里浜は観光地としての名前を知られているので利用すべき。
- 立地条件が非常に都心部から近くて1.5時間ぐらいで、渋滞もあまりなく来られる。
- 特に海という点でポテンシャルがある。

- 公園の課題は主に、①通年型の集客実現、②トレンド・社会情勢の変化への対応、③施設老朽化と更新費用
- 九十九里の名前、海（自然）を活かして、レジャーの多様化に対応した賑わい創出を図るべき

第2回検討会議：方向性に関するアイデア出し

主な議題

- 民間事業者意見、類似事例について
- 公園が目指すべき方向性について

今後の方向性に関する主な意見

- 九十九里の知名度はあるが、ブランド化はできていない。九十九里地域全体で連携して発信していく必要がある。
- 開発のコンセプトが重要。通年型のスポーツ・レジャースポットというコンセプトが考えられるのではないか。
- 海辺の活用は今回外せないテーマ。
- 食や海といった地域の特性を活かした魅力度向上をしていく必要がある。
- ウォーターガーデン利用者の更なる増加と通年利用が検討できると良い。
- 宿泊機能の強化が必要。
- 周辺に温浴施設がないため、温浴施設があれば地元住民にとっても良いのではないか。
- 海が見えるアスレチック施設やツリーウォークもあっていいのではないか。
- ペットツーリズムを展開することも一つの可能性ではないか。

- 九十九里というブランドを明確化し、海・自然・地域の強みを活用して、通年集客が可能な公園を目指すべき
- 既存施設の更なる活用とともに、レジャー・アクティビティ施設や宿泊機能の強化などを図るべき

前回までの検討会議の振り返り (2/2)

第3回検討会議：「整備等の基本的な考え方」(素案)

主な議題

- ・「整備等の基本的な考え方」(素案) について

「整備等の基本的な考え方」(素案) に関する主な意見

- ・ 蓮沼海浜公園は九十九里ブランドを伝えていくための重要な拠点となっていくのではないかと。
- ・ 九十九里浜をより有名にしていけるようなアイデアを考えていきたい。ビジターセンターの設置は一案。
- ・ 周辺市とも連携しながら盛り上げていくことが重要。九十九里ブランド確立に向け、連携体制作りは重要。
- ・ 公園内の回遊性を向上させるような整備が必要。
- ・ 公園のメインとする場所を明確にするため、ゾーニングすることも考えられる。
- ・ レジャー・アクティビティが充実すれば、飲食店などの賑わい施設や宿泊施設も充実するだろう。
- ・ 通年型観光を達成するためのコンテンツが何かあれば良い。
- ・ 車以外でもアクセスしやすい環境は重要だと考える。
- ・ 民業を圧迫しないように注意をしながら検討を進めるべき。

- ・ 蓮沼海浜公園は、当該公園の通年集客だけでなく、九十九里ブランドの確立や周辺地域にも好影響を与えていく九十九里地域の中心となる役割が期待されており、そのような考え方を含めた「整備等の基本的な考え方」となることが望ましい。

検討会議委員からの主な意見と対応（1月の意見照会）

- 基本方針に対して、検討会議の委員からいただいた主な意見と基本方針における記載は以下のとおりである。
- 導入する施設、公園のプロモーション、交通や園内の回遊性等について意見をいただいた。

分類	主な意見	基本方針における記載
導入施設	<ul style="list-style-type: none"> 公園の顔となるような窓口機能には、公園アクティビティとしての窓口機能と九十九里ブランドを活かすための広域窓口機能の両面が求められる。 「リゾート公園」としてリゾート感を演出する必要がある。スパ、サウナなどの温浴施設は、高級リゾートとして演出することも可能と考える。 木材が使われる施設について、潮風による塩害対策はどう考えているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 初めて公園を利用する方にとっても使いやすい施設とすることが求められていることを記載。 P9「3 賑わい創出」において、（宿泊施設の）利用者が日常を忘れてゆっくりと楽しむことができるリゾート空間となるような宿泊機能を創出すると記載。 塩害対策等の施設維持にかかる詳細については基本方針では触れず、具体的な事業内容検討の際の視点として留意。
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> 経済効果が期待できる優れた集客施設が必要。コンセプトをしっかりと構築していくことが重要。 九十九里浜という広大な海岸線を活かした「写真スポット」となるような空間も合わせて考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> P5「1 再整備の視点」において、癒しの空間の実現やレジャーを充実されることにより、蓮沼海浜公園を遠方からでも訪れたいくなるよう「destination」化させ、首都圏広域からの通年集客の実現を目指す方針とすることを記載。
交通・回遊性	<ul style="list-style-type: none"> 周辺道路の整備・自転車道としての活用の検討について、関係各所との適切な協議を望む。 サイクリングロードの整備は観光コンテンツになるとともに、自転車は園内の移動手段にもなるうる。 	<ul style="list-style-type: none"> P10「(3)遊歩道の整備・新たなモビリティの提供」において、回遊性向上に資する新たなモビリティの導入の検討を検討していくことを記載。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 「海辺の活用」と「豊かな自然・憩いの空間創出」部分に重複感があり、全体像を捉えにくくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「海辺の活用」には、海に焦点を当てた取組例を中心に記載し、「豊かな自然・憩いの空間創出」には、海以外の自然や憩いの具体的なイメージも含めた内容を記載。

パブリックコメントでの主な意見

- 基本方針案に対するパブリックコメントを実施した結果、5者から意見をいただいた。
- 導入する施設のアイデアに関する意見が多く、そのほかに、防災や交通インフラに対する意見もあった。

分類	主な意見
導入施設	<ul style="list-style-type: none"> • (地域に生まれ育った者として) 津波防波堤より海岸側は、この計画にいれないこと。自然に手を触れないでください。また、宿泊施設等の明かりは、やむを得ませんが海岸線をスポットライトなどによる演出はしないでください。県内外、外国の方々が来て、一年中賑わいのある海浜公園にしてください。 • 公園全体への季節の花木の植樹、キャンプ施設、バーベキュー、テント村、テニスコート、スケボー施設の設置、プールは部分的に全天候型の屋根設置、地場のレストランの設置 等 • SNS拡散による集客アップに繋がる施策、各イベントの実施(祭り、ビアガーデン、うちわ配布サービス、ハロウィンイベント、イルミネーションの設置、クリスマスイベント、フリーマーケット、トークショー、ご当地グルメ、成田空港などの企業とのコラボイベント、ヒーローショー等)、マリンスポーツの充実、サイクリング・セグウェイ等のレンタルサービス、子供が遊べる大型公園の設置、雨天時でも集客が見込める様々な工夫(雨の日限定割引等)、蓮沼公園オリジナルマスコットキャラクターの設置 等
防災	<ul style="list-style-type: none"> • 地元ボランティアによる巡回パトロール • 行政によるパトロールの強化 • 防災カメラの設置 • 津波対策の強化 等
交通インフラ	<ul style="list-style-type: none"> • 渋滞回避対策(道路の整備等)、非効率な交通網の改善(電車、バス)、駐車場の確保 • 成田空港利用者及びインバウンド需要の対策(空港からのアクセス等)
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 専門業者が行う日々の定期清掃とは別に、ボランティアによる清掃作業の実施(クリーンでおしゃれな施設のイメージ強化) • 地元住民への理解、運用開始後のフォローアップ、意見交換会の実施等